

MAKE THE  
WORLD SEE

# Milestone Systems

---

XProtect® Transact 2020 R2

システム管理者 マニュアル



# 目次

<b>Copyright、商標、および免責条項</b> .....	<b>4</b>
<b>概要</b> .....	<b>5</b>
XProtect Transact (説明付き) .....	5
XProtect Transact システムアーキテクチャ .....	5
<b>ライセンス</b> .....	<b>7</b>
はじめに .....	7
XProtect Transact 試用版 ライセンス .....	7
<b>要件と注意事項</b> .....	<b>8</b>
互換性 .....	8
<b>設定</b> .....	<b>9</b>
コネクタ (説明付き) .....	9
トランザクション定義 (説明付き) .....	9
トランザクションイベント (説明付き) .....	10
トランザクションを構成 .....	10
トランザクションソースの追加 (ウィザード) .....	10
トランザクションソース (プロパティ) .....	11
トランザクション定義を作成および追加する .....	12
トランザクション定義 (プロパティ) .....	13
トランザクションイベントとアラームを構成 .....	15
トランザクションイベントの定義 .....	15
トランザクションイベントに基づくアラームの作成 .....	16
イベントのルールの設定 .....	17
トランザクションイベントまたはアラームのフィルタリングを有効にする .....	17
XProtect Transact構成の確認 .....	18
<b>メンテナンス</b> .....	<b>20</b>
トランザクションソースの作業 .....	20
トランザクションソース設定の編集 .....	20
トランザクションソースを無効にする .....	20

トランザクションソースを削除 .....	20
トラブルシューティング .....	<b>22</b>
XProtect Transact (トラブルシューティング) .....	22
エラーメッセージと警告 .....	22

## Copyright、商標、および免責条項

Copyright © 2020 Milestone Systems A/S

### 商標

XProtect はMilestone Systems A/Sの登録商標です。

MicrosoftおよびWindowsは、Microsoft Corporationの登録商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。AndroidはGoogle Inc.の商標です。

本文書に記載されているその他の商標はすべて、該当する各所有者の商標です。

### 免責条項

このマニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生する危険の責任はすべてその使用者にあるものとします。また、ここに記載されている内容はいずれも、いかなる事項も保証するものではありません。

Milestone Systems A/S は、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、それが現存しているかどうかにかかわらず、まったく偶然であり、意図的なものではありません。

この製品では、特定の契約条件が適用される可能性があるサードパーティ製ソフトウェアを使用することがあります。その場合、詳細はお使いのMilestoneシステムインストールフォルダーにあるファイル3rd\_party\_software\_terms\_and\_conditions.txtを参照してください。

## 概要

### XProtect Transact (説明付き)

XProtectTransactはMilestoneのIPビデオ監視ソリューションのアドオンで、継続的なトランザクションを観察し、過去にトランザクションを調査することができます。トランザクションは、詐欺を証明したり、犯人のエビデンスを提示したりするためなどに、トランザクションを監視するデジタル監視動画にリンクしています。トランザクションラインと動画画像の間には1対1の関係があります。

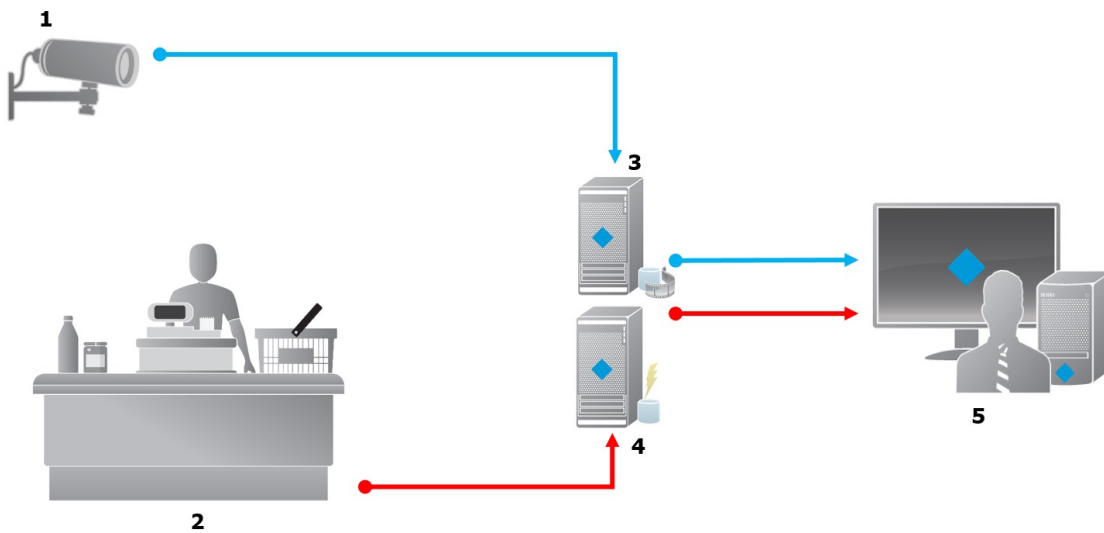
トランザクションデータは、さまざまなタイプのトランザクションソースから発生します。一般的には、POSシステムやATMなどです。トランザクションラインを選択するときには、各関連付けられたカメラのビデオ静止フレームがビデオビューアに表示され、録画を確認できます。ビデオプレビューアの下に、選択されたラインに関連付けられたトランザクションがレシートビューに表示されます。

### XProtect Transact システムアーキテクチャ

XProtectTransact通信フローには複数のコンポーネントがあります。入力データは、ビデオ監視カメラと、キャッシュレジスターやATMなどのトランザクションデータを提供するトランザクションソースから発生します。トランザクションデータはイベントサーバーに保存され、ビデオストリームはレコーディングサーバーに保存されます。サーバーのデータはXProtectSmartClientに転送されます。



お使いのシステムによって、数種類の録画サーバーが存在します。



図例:

- 1 = カメラ
- 2 = キャッシュレジスター
- 3 = レコーディングサーバー
- 4 = イベントサーバー
- 5 = Smart Client
- 青色の矢印は、監視システムのビデオ録画を示します。
- 赤色の矢印は、トランザクションソースからのトランザクションデータを示します

標準では、XProtect Transactは2種類のトランザクションソースをサポートします。

- シリアルポートクライアント
- TCPサーバークライアント

追加のタイプのトランザクションソースは、ERPシステムからトランザクションデータを取得するコネクタなど、MIP SDKによって開発されたカスタムコネクタを使用してサポートすることができます。

## ライセンス

### はじめに

XProtect Transact機能はManagement Clientで標準です。基本ライセンスとトランザクションソースライセンスをアクティベートすると、機能をただちに使用できます。

XProtect Smart ClientでXProtect Transact機能を使用する前に、次のことを確認する必要があります。

1. XProtect Transactの基本ライセンスがアクティベーションされていること
2. 監視が必要な各トランザクションソース用のトランザクションソースライセンスがあることライセンス情報は、【基本】ノードの下で見ることができます。



トランザクションソースライセンス数が十分ではない場合、30日間の猶予期間が終了する前に確実に追加ライセンスを取得してください。

3. 次に、XProtect Transactを設定します。詳細については、トランザクションを構成ページ10を参照してください。



XProtect Transactライセンスを購入していない場合でも、試用版ライセンスでXProtect Transactを試すことができます。詳細については、XProtect Transact試用版ライセンスページ7を参照してください。

### XProtect Transact 試用版 ライセンス

XProtect Transact試用版ライセンスを使用して、最大30日までXProtect Transact機能を試すことができます。すべての関連する機能が有効になり、キャッシュレジスターなどのトランザクションソースを1つ追加できます。30日間の試用期間が終了すると、**Transact**ワークスペースとトランザクションビューアイテムを含む、すべてのXProtect Transact機能が無効になります。XProtect Transact基本ライセンスと必要なトランザクションソースライセンスを購入してアクティベートすると、設定とデータを維持したまま再びXProtect Transactが使用できます。

その他の製品については、Milestoneから試用版ライセンスを取得する必要があります。システム管理者は構成で試用版ライセンスをアクティベートする必要があります。

ライセンスの詳細については、はじめにページ7を参照。

## 要件と注意事項

### 互換性

XProtect Transact は、バージョン2016 R1以降と互換性があります。

- XProtect Corporate
- XProtect Expert

XProtect Transact は、以下のバージョン2017 R2以降と互換性があります。

- XProtect Professional+
- XProtect Express+



## 設定

### コネクタ(説明付き)

コネクタにより、ATMなどのトランザクションソースから未加工トランザクションデータを、監視カメラ管理ソフトウェアに関連付けられたイベントサーバーにインポートすることが簡単となります。

次の表は、使用可能なビルトインコネクタを示します。

名前	説明
TCP クライアントコネクタ	トランザクションソースがTCPサーバーインターフェイス経由でトランザクションデータを配信するときに使用します。このコネクタでは、ホスト名とポート番号の2つの設定が指定できます。
シリアルポートコネクタ	イベントサーバーのシリアルポートで入力としてトランザクションデータを受信するときに使用します。



MIP SDKによって開発されたコネクタも使用できます。

### トランザクション定義(説明付き)

トランザクション定義は設定のグループであり、トランザクションソースの未加工データをビデオ録画とともにXProtectSmart Clientで表示する方法を制御できます。出力は、レジのレシートやATMのレシートなど、実際のレシートに似たわかりやすい形式です。

具体的には、トランザクション定義では次のことができます。

- 個別のトランザクションと開始と停止を定義します
- 必要に応じて改行を挿入します
- データがプリンタ接続で発生し、改行を示す印刷不能な文字が含まれている場合や、レジのレシートを切るときなど、不要な文字やテキスト文字を除外します。
- 文字を別の文字で置換します。



複数のトランザクションソースで同じトランザクション定義を使用できます。

## トランザクションイベント(説明付き)

トランザクションイベントは、トランザクションソース(キャッシュレジスタなど)からイベントサーバーに転送されるトランザクションデータのストリームにおける特定の単語、数字、または文字の発生です。システム管理者として、イベントを定義する必要があります。これにより、オペレータはXProtect Smart Clientのトランザクションイベントを追跡および調査できます。各イベントに対して、完全一致、ワイルドカード、または正規表現の中から方法(一致タイプ)を指定し、トランザクションデータの文字列を特定する必要があります。

## トランザクションを構成

XProtect Transact ライセンスアクティブ化後:

1. キャッシュレジスタなどのトランザクションデータを提供するソースを追加および構成します。
2. トランザクションの定義を指定します。すなわち、どのように開始および終了するかを指定します。これにはXProtect Smart Clientでどのように表示されるべきかも含まれます。



トランザクションを設定する場合は、トランザクションイベントを定義し、ルールやアラームをトリガーするように設定することができます。XProtect Smart Clientでは、オペレータはこれらのイベントに基づき、トランザクションを調査できます。詳細については、トランザクションイベントとアラームを構成ページ15を参照してください。

## トランザクションソースの追加(ウィザード)

トランザクションソースからXProtect Transactにデータを接続するには、ATMなどのトランザクションのソースを追加する必要があります。ウィザードでは、コネクタを選択し、1つ以上のカメラを接続できます。




追加するトランザクションソースのトランザクションソースライセンスがない場合は、30日間の猶予期間中はシステムが動作します。追加のトランザクションソースライセンスを取得し、期限内にアクティベートしてください。

手順:

1. [サイトナビゲーション] ペインで **[Transact]** を展開します。
2. [概要] ペインに移行します[トランザクションソース] ノードを右クリックし、[ソースの追加] を選択します。ウィザードが表示されます。
3. ウィザードの手順に従います。
4. 選択するコネクタによって、フィールドに表示される必須入力フィールドが異なります。詳細については、トランザクションソース(プロパティ)ページ11を参照してください。ウィザードを完了した後に、これらの設定を変更できます。
5. 必要なトランザクション定義が使用できない場合は、**[新規追加]** をクリックして、新しいトランザクション定義を作成できます。

## トランザクションソース(プロパティ)

トランザクションソースの設定は表で説明します。

名前	説明
有効	<p>トランザクションソースを無効にする場合は、このチェックボックスをオフにします。トランザクションデータのストリームが停止しますが、既にインポートされたデータはイベントサーバーに残ります。保存期間中にはXProtect Smart Clientで無効なトランザクションソースからトランザクションを表示することができます。</p> <div style="border: 1px solid #0070C0; padding: 5px; margin-top: 10px;">  無効なトランザクションソースでも、トランザクションソースライセンスが必要です。                 </div>
名前	名前を変更する場合は、新しい名前をここに入力します。
コネクタ	トランザクションソースを作成するときには、選択したコネクタを変更できません。別のコネクタを選択するには、新しいトランザクションソースを作成し、ウィザードで任意のコネクタを選択する必要があります。
トランザクションの定義	<p>受信されたトランザクションデータをトランザクションおよびトランザクション行に変換する方法を定義する別のトランザクション定義を選択できます。これには次の定義が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トランザクションが開始および終了するとき</li> <li>トランザクションがXProtect Smart Clientに表示される方法。</li> </ul>
保持期間	<p>イベントサーバーでトランザクションデータを保持する期間を日数で指定します。デフォルトの保持期間は30日です。保持期間が終了すると、自動的にデータが削除されます。これにより、データベースのストレージ容量を超過する状況を回避できます。</p> <p>最小値は1日、最大値は1000日です。</p>
TCPクライアントコネクタ	<p>TCP クライアントコネクタを選択した場合は、次の設定を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホスト名: トランザクションソースに関連付けられたTCPサーバーのホスト名を入力します。</li> <li>ポート: トランザクションソースに関連付けられたTCPサーバーのポート名を入力します。</li> </ul>
シリアルポートコネクタ	<p>シリアルポートコネクタを選択した場合は、これらの設定を指定し、トランザクションソースの設定と一致することを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリアルポート: COMポートを選択します。</li> <li>ボーレート: 1秒あたりに転送されるビット数を指定します。</li> </ul>

名前	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>パリティ:</b> 転送のエラー検出方法を指定します。デフォルトでは、なしが選択されています。</li> <li>● <b>データビット:</b> データの1文字を表すために使用されるビット数を指定します。</li> <li>● <b>ストップビット:</b> 1バイトが転送されるタイミングを示すビット数を指定します。ほとんどのデバイスでは1ビットが必要です。</li> <li>● <b>ハンドシェイク:</b> トランザクションソースとイベントサーバー間の通信プロトコルを決定するハンドシェイク方式を指定します。</li> </ul>

## トランザクション定義を作成および追加する

トランザクションソースの定義の一部として、ソースの定義を指定します。定義は受信された未加工データを表示可能なデータに変換します。これによりユーザーは、実際の受信と一致する形式でXProtect Smart Clientのデータを表示できます。一般的に、未加工データはデータの1つの文字列であり、個別のトランザクションの開始および終了位置を確認することが困難になる可能性があるため、この処理が必要になります。

手順:

1. **【サイトナビゲーション】** ペインで **【Transact】** を展開します。
2. **【トランザクション定義】** を選択します。
3. **【概要】** ペインに移行します**【トランザクション定義】** を右クリックし、**【行の追加】** を選択します。複数の設定が**【プロパティセクション】** に表示されます。
4. **【開始パターン】** と**【終了パターン】** フィールドを使用して、受信の開始および終了を定義するデータを指定します。
5. **【データ収集の開始】** をクリックし、接続されたデータソースから未加工データを収集します。収集するデータが多くなるほど、制御文字などの置換または省略したい文字が見つからないリスクが低くなります。
6. **【未加工データ】** セクションで、置換または省略する文字をハイライト表示します。文字を手動で入力する場合は、この手順を省略し、**【フィルタの追加】** をクリックします。
7. **【フィルタの追加】** をクリックし、トランザクションソースデータから選択した文字がXProtect Smart Clientに表示される方法を定義します。
8. フィルタごとに、文字を変換する方法を決定するアクションを選択します。**【プレビュー】** セクションには、定義されたフィルタでデータを表示する方法がプレビュー表示されます。



また、コンピュータにローカル保存された、以前に収集されたデータを読み込むこともできます。この場合、**【ファイルから読み込む】** をクリックします。

## トランザクション定義(プロパティ)

名前	説明
名前	名前を入力します。
エンコーディング	<p>キャッシュレジスターなど、トランザクションソースによって使用される文字セットを選択します。これによりXProtect Transactは、定義を構成するときに、作業に支障がない理解可能なテキストにトランザクションデータを変換できます。</p> <p>間違っただエンコーディングを選択すると、データが意味のない文字として表示される場合があります。</p>
データ収集の開始	<p>接続されたトランザクションソースからトランザクションデータを収集します。データを使用して、トランザクション定義を使用できます。</p> <p>少なくとも1つ、できれば複数のトランザクションが完了するまで待機します。</p>
データ収集の停止	定義を構成するのに十分なデータを収集したら、このボタンをクリックします。
ファイルから読み込む	既に存在するファイルからデータをインポートする場合は、このボタンをクリックします。一般的に、これは、.captureファイル形式で以前に作成されたファイルです。他のファイル形式にすることもできます。ここで重要なことは、インポートファイルのエンコーディングが、現在の定義で選択されたエンコーディングと一致することです。
ファイルに保存	収集された未加工データをファイルに保存する場合は、このボタンをクリックします。後から再利用できます。
一致タイプ	<p>収集された未加工データで開始パターンと停止パターンを検索するために使用する一致タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>完全一致を使用: この検索は【開始パターン】と【終了パターン】フィールドに入力したものとまったく同じ内容を含む文字列を特定します。</li> <li>ワイルドカードの使用: この検索はワイルドカード記号(*、#、?)を組み合わせ、【開始パターン】と【終了パターン】フィールドに入力したものと同一内容を含む文字列を特定します。 *は任意の文字数と一致します。たとえば、「Start tra*tion」と入力すると、「Start transaction」を含む文字列を特定します。 #は1桁と一致します。たとえば、「# watermelon」と入力すると、「1 watermelon」などを含む文字列を特定します。 。は厳密に1文字と一致します。たとえば、検索式「Start trans?ction」を使用して、「Start transaction」を含む文字列を特定できます。</li> </ul>

名前	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>正規表現の使用: この一致タイプを使用すると、日付形式やクレジットカード番号などの特定の表記方法や規則を含む文字列を特定します。詳細については、Microsoft社のWebサイト (<a href="https://docs.microsoft.com/dotnet/standard/base-types/regular-expression-language-quick-reference/">https://docs.microsoft.com/dotnet/standard/base-types/regular-expression-language-quick-reference/</a>) を参照してください。</li> </ul>
元データ	接続されたトランザクションソースのトランザクションデータ文字列がこのセクションに表示されます。
開始パターン	トランザクションの開始位置を示す開始パターンを指定します。【プレビュー】フィールドには横線が挿入され、トランザクションの開始および終了位置を視覚的に示し、個別のトランザクションを区切ります。
停止パターン	<p>トランザクションの停止位置を示す停止パターンを指定します。停止パターンは必須ではありませんが、実際のトランザクション間で、受信されたデータに開始時間または特別キャンペーンなどの無関係なデータが含まれる場合に便利です。</p> <p>停止パターンを指定しない場合は、受信の終了は次の受信の開始場所として定義されます。開始は、【開始パターン】フィールドに入力された内容によって決まります。</p>
フィルターの追加	<p>【フィルターの追加】ボタンを使用して、XProtect Smart Clientで省略するか、他の文字または改行で置換する文字を指定します。</p> <p>トランザクションソース文字列に出力しない制御文字が含まれている場合は、文字の置換が有効です。XProtect Smart Clientでの受信を元の受信と同様に表示するには、改行の追加が必要です。</p>
テキストのフィルター	<p>【元データ】セクションで現在選択されている文字を表示します。省略または置換する文字を認識し、収集された未加工データ文字列に出現していない場合は、手動で【文字】フィールドに文字を入力できます。</p> <p>文字が制御文字の場合は、16進数のバイト値を入力する必要があります。バイト値では次の形式を使用します。1文字に複数バイトがある場合は{XX}および{XX,XX,...}。</p>
アクション	<p>追加するフィルタごとに、選択した文字が処理される方法を指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>除外: 選択する文字は除外されます。</li> <li>置換: 選択した文字は、指定した文字で置換されます。</li> <li>改行の追加: 選択した文字は改行で置換されます。</li> </ul>
置換	選択した文字を置換するテキストを入力します。【置換】のアクションを選択した場合にのみ意味を

名前	説明
	持ちます。
フィルターテキストとして定義されていない制御文字を削除	フィルター追加後でもまだ取り除かれていない非印刷文字を取り除きます。 【未加工データ】ペインと【プレビュー】セクションで、この設定を有効または無効にした際にトランザクションデータ文字列がどのように変化するかの確認をします。
プレビュー	【プレビュー】セクションを使用して、不要な文字を特定して除外したことを確認します。ここに表示される出力は、XProtect Smart Clientでの実際のレシートと類似しています。

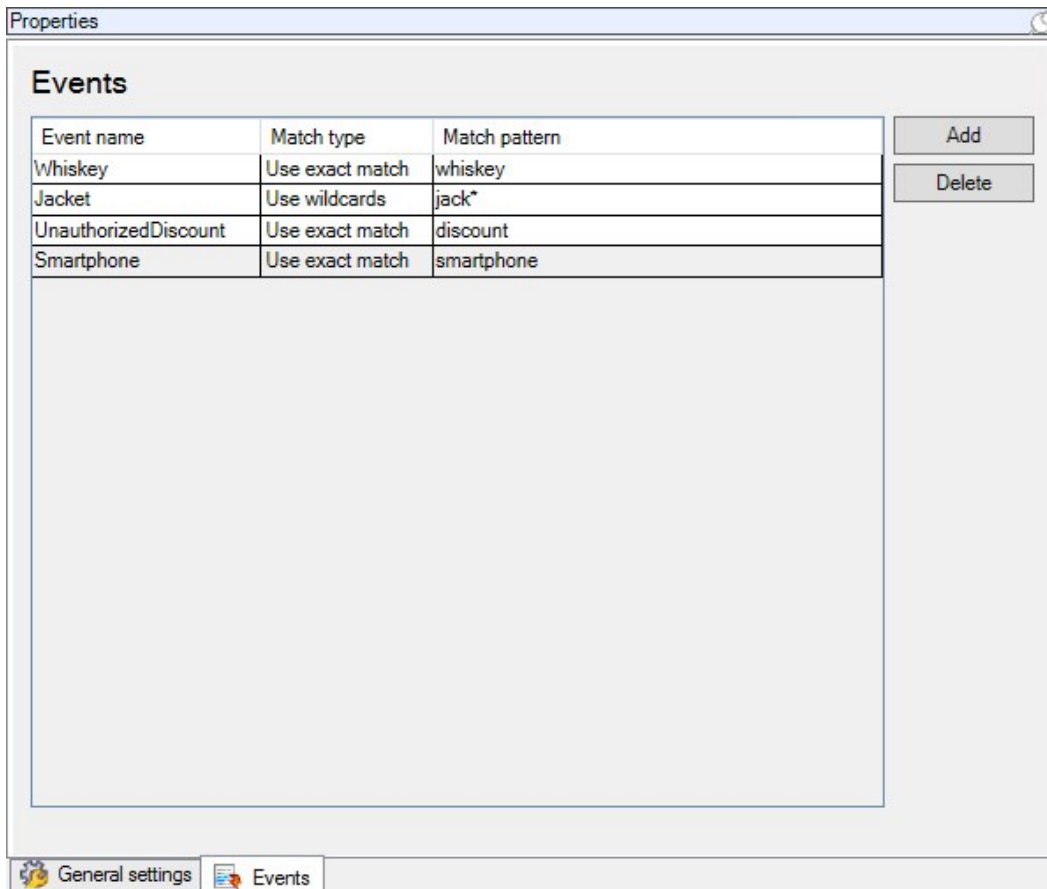
## トランザクションイベントとアラームを構成

### トランザクションイベントの定義

XProtect Smart Clientでトランザクションイベントを追跡および調査するには、まず、スマートフォンの取得といったイベントを定義する必要があります。トランザクション定義でトランザクションイベントを定義し、定義されたイベントが、キャッシュレジスタなどのトランザクション定義を使用するすべてのトランザクションソースに適用されるようにします。

手順:

1. [サイトナビゲーション] ペインで **[Transact]** を展開します。
2. [概要] ペインに移行します イベントを定義するトランザクション定義を選択します。
3. [イベント] タブをクリックします。



4. [プロパティ] ペインで[追加]をクリックします。新しい行が追加されます。
5. イベントの名前を入力します。
6. トランザクションデータの固有の文字列をイベントとして指定するために使用する一致タイプを選択します。完全一致、ワイルドカード記号、および正規表現から選択できます。詳細については、トランザクション定義(プロパティ) ページ13の一致タイプの説明を参照してください。
7. [一致パターン]列で、「スマートフォン」など、システムがイベントとして特定する項目を指定します。
8. 各イベントに対して上記の手順を繰り返します。

## トランザクションイベントに基づくアラームの作成

特定のトランザクションイベントが発生するたびにXProtect Smart Clientのオペレータに通知するには、まず、Management Clientでトランザクションアラームを作成する必要があります。アラームはXProtect Smart Clientの[アラームマネージャー]タブに表示され、オペレータはイベントを調査し、必要に応じてアクションを実行できます。

手順:



1. 【サイトナビゲーション】ペインで【アラーム】を展開します。
2. 【概要】ペインに移行します【アラーム定義】ノードを右クリックし、【新規追加】をクリックします。。【プロパティ】ペインの設定がアクティブになります。
3. アラームの名前を入力し、そして必要に応じて【説明】フィールドにXProtect Smart Clientオペレータが実行するアクションの手順も入力します。
4. 【イベントのトリガー】ドロップダウンメニューで、【トランザクションイベント】を選択します。
5. 【トランザクションイベント】の下のドロップダウンメニューで、特定のイベントを選択します。
6. 【ソース】フィールドで【選択】ボタンをクリックします。ポップアップウィンドウが表示されます。
7. 【サーバー】タブをクリックし、トランザクションソースを選択します。
8. 追加の設定を指定します。詳細については、1ページの「アラーム定義(プロパティ)」を参照してください。

## イベントのルールの設定

特定のトランザクションイベントが発生したときにアクションをトリガーする場合は、ルールを設定する必要があります。その場合、イベントを選択し、カメラでの録画の開始または電子メールの送信といった、発生する必要がある状況を指定します。

手順:

1. 【サイトナビゲーション】ペインで【ルールとイベント】を展開します。
2. 【概要】ペインに移行します【ルール】を右クリックし、【ルールの追加...】を選択します。ウィザードが表示されます。
3. ウィザードの手順に従います。
4. 【アクションを<イベント>で実行】のラジオボタンが選択されていることを確認します。
5. 【トランザクト】>【トランザクションイベント】の下で、トランザクションイベントを選択します。
6. アクションに録画が含まれ、トランザクションソースに関連付けられたカメラ(キャッシュレジスタなど)を使用する場合は、ウィザード中に表示されるダイアログボックスの【メタデータからデバイスを使用】ラジオボタンを選択します。

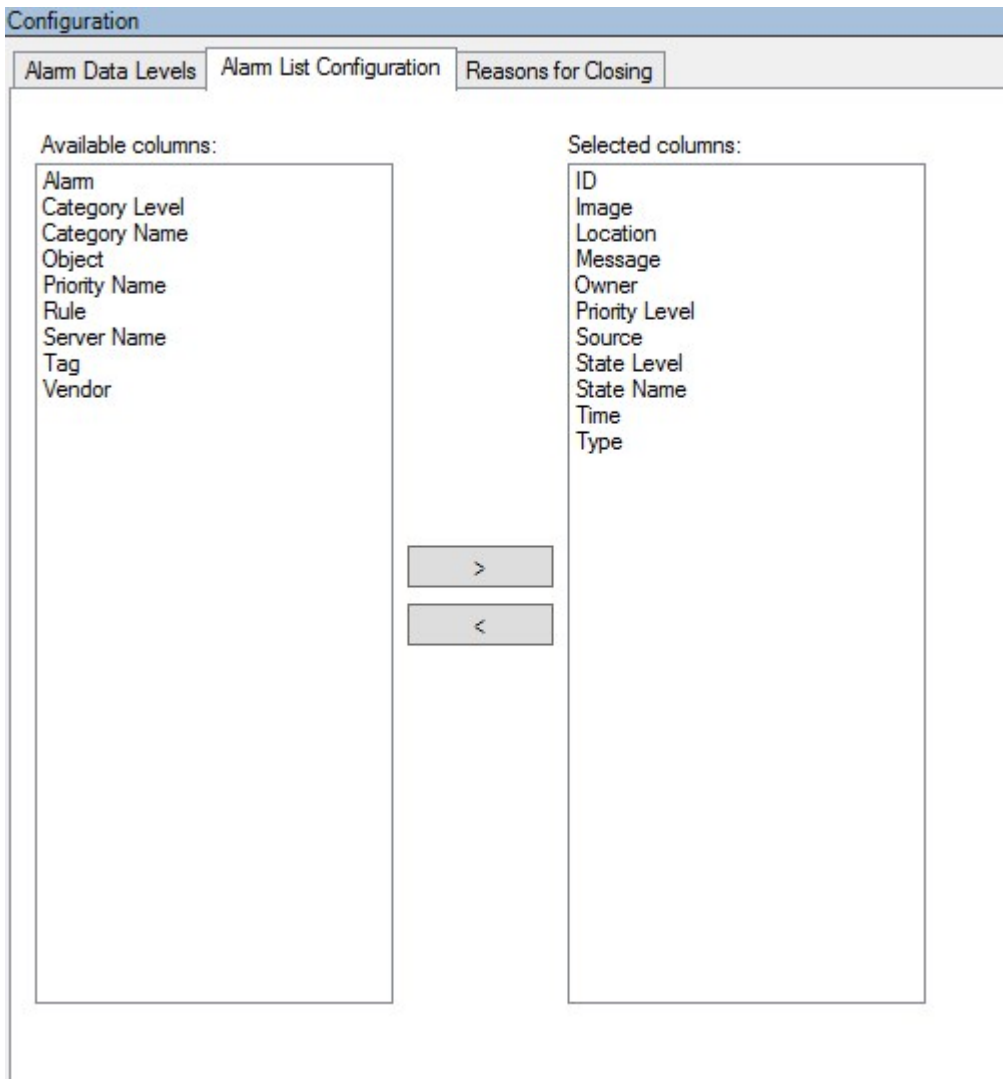


## トランザクションイベントまたはアラームのフィルタリングを有効にする

XProtect Smart Clientオペレータがトランザクションによってイベントまたはアラームをフィルタリングできるようにする場合は、まず、Management Clientの【タイプ】フィールドを有効にする必要があります。有効にすると、このフィールドは、XProtect Smart Clientの【アラームマネージャ】タブのフィルタセクションで使用できます。

手順:


1. 【サイトナビゲーション】ペインで【アラーム】を展開します。
2. 【アラームデータ設定】を選択し、【アラームリスト設定】タブをクリックします。



3. 【使用可能な列】セクションで、【タイプ】フィールドを選択します。
4. フィールドを【選択した列】に追加します。
5. 変更を保存します。これで、このフィールドは、XProtect Smart Clientで使用できます。

## XProtect Transact構成の確認

XProtect Transactとコンポーネントの構成が完了したら、XProtect Smart Clientで想定されるとおりにTransactが動作することをテストできます。

1. すべての必要なトランザクションソースがManagement Clientに正しく追加されたことを確認します。
  1. XProtect Smart Clientを開き、**[Transact]**タブをクリックします。
  2. **[すべてのソース]**ドロップダウンメニューをクリックし、すべてのトランザクションソースが表示されることを確認します。
2. トランザクション定義がManagement Clientで正しく構成されたことを確認します。正しく構成されている場合は、トランザクションごとに1つの受信があり、正しく改行されます。
  1. XProtect Smart Clientを開き、**[Transact]**タブをクリックします。
  2. アクティブなトランザクションソースを選択し、をクリックします。今日のトランザクション行が表示されます。
  3. 行をクリックすると、関連付けられた受信と動画の録画が表示されます。
3. トランザクションイベントが正しく構成されていることを確認します。
  1. キャッシュレジスターなどの接続されたトランザクションソースで購入および登録された可能性が高い項目など、Management Clientでトランザクションテストイベントを定義します。
  2. イベントが発生したら、XProtect Smart Clientを開き、**[アラームマネージャ]**タブをクリックします。
  3. アラームリストを開き、**[イベント]**を選択します。最新のイベントは、一覧の一番上に表示されます。作成したテストイベントは一覧に表示されます。

## メンテナンス

### トランザクションソースの作業

#### トランザクションソース設定の編集

トランザクションソースを追加した後は、名前を変更するか、別のトランザクション定義を選択できます。選択したコネクタによっては、接続したTCPサーバーのホスト名とポート番号など、その他の設定も修正できる場合があります。また、トランザクションソースを無効にすることもできます。これにより、トランザクションソースからイベントサーバーへのトランザクションデータのフローが中断されます。



コネクタを選択すると、変更できません。

手順:

1. [サイトナビゲーション] ペインで **[Transact]** を展開します。
2. [トランザクションソース] を選択します。
3. [概要] ペインに移行します。トランザクションソースをクリックします。プロパティが表示されます。
4. 必要な変更を行い、保存します。詳細については、トランザクションソース(プロパティ)ページ11を参照してください。

#### トランザクションソースを無効にする

ATMが一時的に故障している場合や、登録されたキャッシュレジスターが無効な場合などに、トランザクションソースを無効にできます。イベントサーバーへのトランザクションデータのフローは中断されます。

手順:

1. [サイトナビゲーション] ペインで **[Transact]** を展開します。
2. [トランザクションソース] を選択します。
3. [概要] ペインに移行します。トランザクションソースをクリックします。プロパティが表示されます。
4. [有効化] チェックボックスをオフにして、変更を保存します。トランザクションソースが無効になります。

#### トランザクションソースを削除

追加したトランザクションソースを削除できます。そのソースから保存されたトランザクションデータはイベントサーバーから削除されます。



代替方法として、トランザクションソースを無効にし、保存されたトランザクションデータが削除されないようにすることができます。無効なトランザクションソースでも、トランザクションソースライセンスが必要です。

手順:

1. [サイトナビゲーション] ペインで **[Transact]** を展開します。
2. [トランザクションソース] を選択します。
3. [概要] ペインに移行します[トランザクションソース]項目をクリックします。削除するソースを右クリックします。
4. [削除] を選択します。ダイアログボックスが表示されます。
5. **[OK]** をクリックして、トランザクションソースを削除することを確認します。

## トラブルシューティング

### XProtect Transact (トラブルシューティング)

#### エラーメッセージと警告

イベントサーバーからのトランザクションデータの検索に失敗しました。

イベントサーバーが実行中ではないか、応答していません。あるいは、サーバーへの接続が失われました。

これはイベントサーバーまたは関連付けられたデータベースの内部エラーです。これには、データベースへの接続に関する問題が含まれる場合があります。この問題を解決するには、システム管理者にお問い合わせください。

完了前に検索がタイムアウトしました。検索期間を短くして、検索を絞り込んでください。

これはイベントサーバーまたは関連付けられたデータベースの内部エラーです。これには、データベースへの接続に関する問題が含まれる場合があります。この問題を解決するには、システム管理者にお問い合わせください。



[helpfeedback@milestone.dk](mailto:helpfeedback@milestone.dk)

#### Milestoneについて

Milestone Systems はオープンプラットフォームの監視カメラ管理ソフトウェア (Video Management Software: VMS) の世界有数のプロバイダーです。お客様の安全の確保、資産の保護を通してビジネス効率の向上に役立つテクノロジーを提供します。Milestone Systems は、世界の15万以上のサイトで実証された高い信頼性と拡張性を持つMilestoneのソリューションにより、ネットワークビデオ技術の開発と利用におけるコラボレーションとイノベーションを促進するオープンプラットフォームコミュニティを形成します。Milestone Systemsは、1998年創業、Canon Group傘下の独立企業です。詳しくは、<https://www.milestonesys.com/>をご覧ください。

